



ほんじゅく

新緑の光を浴びて、伸びゆく本宿の子どもたち

副校長 松本 美代子

若葉の輝きとともに

校庭の木々が鮮やかな緑に染まり、初夏の爽やかな風が吹き抜ける季節となりました。進級・入学から1か月が経ち、子どもたちの表情には新しい環境への緊張感に代わり、自分たちの力で学校生活を創り出そうとする意欲が満ち溢れています。

まさに「新緑の季節」という言葉の通り、一人一人が自分の可能性を信じ、ぐんぐんと成長しようとする力強い生命力を感じる毎日です。

始業式の「3つの約束」を心の柱に

さて、4月の始業式において、校長から全校児童に向けて、1年間大切にしてほしい「3つの話」がありました。1点目は「少しだけ頑張ろう」、2点目は「人の話をしっかり聞こう」、そして3点目は「命を大切にしよう」です。

この3つの約束は、本宿小学校の子どもたちが心身ともに健やかに成長し、充実した学校生活を送るための、いわば「心の羅針盤」です。5月に入り、子どもたちはこの約束を具体的な行動へと移し始めています。「少しだけ頑張る」という姿勢は、学習や生活の中での小さな挑戦として現れています。例えば、「算数の難しい問題にあと一問挑戦してみよう」「苦手な野菜を一口だけ食べてみよう」などの行動です。こうした「昨日までの自分を少しだけ超えようとする努力」の積み重ねが、子どもたちの確かな自信となり、元気な心を育てていくことでしょう。

運動会への挑戦 — 心と体を鍛える

今月30日には、運動会が開催されます。これから練習が本格的に始まりますが、子どもたちは「心と体の健康」を保ちながら、全力で取り組んでいくことと思います。

運動会の練習は、まさに「3つの約束」を体現する場でもあります。自分の限界に「少しだけ頑張る」こと、先生や仲間のアドバイスを「しっかり聞く」こと、そして怪我のないよう自分と仲間の「命（安全）を大切にすること」。

これらを意識して練習に励む過程で、集団の中での自分の役割を学び、仲間と協力する喜びを味わいます。

本番で見せる一瞬の輝きはもちろんのこと、そこに至るまでの葛藤や努力、励まし合いのプロセスこそが、子どもたちの「可能性」を伸ばしていく貴重な経験になると思います。

保護者・地域の皆様とともに歩む

こうした子どもたちの健やかな成長は、学校の教育活動だけで成し遂げられるものではありません。

本宿小学校が位置するこの武蔵野の地は、地域全体で子どもたちを慈しみ、育てるという素晴らしい伝統があります。日頃から登下校を見守ってくださる地域の皆様、そして学校の活動を一番近くで支えてくださる保護者の皆様。皆様の温かな眼差しと「見守りの手」があるからこそ、子どもたちは安心して「少しだけ頑張る」一歩を踏み出すことができると思います。

学校は、誰もが失敗を恐れずに挑戦できる場所でありたいと考えています。たとえ失敗したとしても、家庭で励まされ、地域で温かく声を掛けられる。そんな「守られ、支えられている」という実感が、子どもたちの自己肯定感を育み、困難に立ち向かう力へと繋がっていきます。

チーム本宿の輪を広げて

私たちは、学校・家庭・地域の三者が固く手を結び、子どもたちを真ん中に置いた大きな「和」を創り上げたいと願っています。自分らしく成長していくためには、大人が互いに信頼し合い、同じ方向を向いて寄り添うことが何よりの力となります。運動会当日、校庭に舞い上がる砂埃さえも、子どもたちの躍動するエネルギーの証に見えることでしょうか。当日は、ぜひ子どもたちの精一杯の姿に大きな拍手をお送りください。皆様の声援が、さらなる成長の糧となります。私たち教職員も、地域の皆様・保護者の皆様と手を取り合い、「チーム本宿」として、子どもたちの無限の可能性を伸ばしていくために全力を尽くしてまいります。

五月晴れの下、本宿小学校のみんなが最高に輝く一日となるよう、引き続きのご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。